

# 丸善CHIホールディングス株式会社

## 経営計画



MARUZEN CHI  
Holdings

2018年5月1日

# 経営理念・環境認識

経営理念

価値観：知は社会の礎である

グループ  
ビジョン

知の生成と流通に革新をもたらす企業集団となる

環境認識

- 人口減少に伴い、国内市場は緩やかに縮小
- 大学・自治体等の書籍購買予算も横ばいまたは微減傾向
- 一方、高齢化社会や地方創生による新たな社会ニーズが顕在化。
- 書籍・雑誌販売はピーク時（1996年）の6割弱まで縮小
- 同じく書店数は1996年の2万6千店から、約半数に減少
- ネット小売、電子書籍が急速に拡大。消費者・読者の購買スタイルの変化

# 事業戦略テーマ

経営理念

価値観：知は社会の礎である

書籍流通構造  
改革の推進

書店収益力の  
向上

“人生100年時代”  
への学び事業の創造

# 戦略テーマ別取り組み

## 書籍流通構造改革の推進

### 事業課題

- **出版流通市場は縮小継続**
  - ピーク時の1996年から48%減、書店数も10年で25%減
- **コンテンツ流通モデルの多様化**
  - 無料マンガアプリや電子雑誌の定額読み放題など

### 取り組み

- **AI・データ活用によるフレキシブルな流通網を構築**
- **電子図書館・電子教材システムの強化**
- **IT活用による業務効率化**

# 戦略テーマ別取り組み

## 書店収益力の向上

### 事業課題

- 2017年度既存店売上は対前4.1%減
  - 市場全体は前年比7%減
- セグメント営業損益は前年から改善も赤字
  - 前年比約6.5億円の損益改善も利益計上には至らず

### 取り組み

- ハイブリッド戦略やポイント戦略による来店誘因
- 店舗複合化の推進・スクラップ&ビルドの継続
- データ分析に基づいた品ぞろえ強化

# 戦略テーマ別取り組み

## “人生100年時代”への学び事業の創造

### 事業課題

- これからの長寿高齢化社会、AI化社会において、学びの必要性がますます高まる
- 学習指導要領の改訂、大学入試改革など、公教育も大きく変わっていく
- 成人の学び直しなど、生涯学習に対するニーズも拡大

### 取り組み

- 企業や地域における学びの場作り事業への注力
- 探究的学習としての《図書館を使った調べる学習コンクール》の拡大
- 生涯学習への取り組み・事業化

# 収益計画

- 平成31年1月期は、店舗・ネット販売セグメントでは、収益力強化に向けて、スクラップ&ビルド、売場複合化等によるより魅力ある店舗づくり、AIによる分析や書籍流通倉庫活用による品ぞろえの向上、店舗マネジメント力の強化に注力してまいります。
- また、文教市場販売セグメント、図書館サポート事業セグメントでは、人生100年時代に向けた、生涯学び続けることができる社会への貢献を目指し、生涯学習分野での事業化や、学びの場としての図書館を中心とした地域活性化などを推進してまいります。
- 売上高については、収益性の低い事業の見直し等により減収になりますが、上記の取り組みにより、営業利益、経常利益は増益を見込み、さらに平成30年1月期は減損損失の計上があったため、平成31年1月期の親会社株主に帰属する当期純利益については大幅な増益を見込んでおります。

【平成31年1月期予想】 (単位:百万円)	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益
<b>通期業績予想</b>	175,000	2,500	2,400	1,200
<b>当期実績(通期)との比較</b>	-3,349 98.1%	+199 108.6%	+145 106.4%	+1,521 ---
[平成30年1月期通期実績]	178,349	2,301	2,255	▲ 321

## 配当および資本政策

- 当社グループは、株主に対する利益還元を重要な経営課題と認識しており、今後の事業拡大に備えた内部留保を 図りながら、業績に応じた配当を行うことを基本方針としております。
- 当社を取り巻く市場環境は、出版物販売額の長期に亘る減少、コンテンツ流通の多様化、少子化による学生数の減少など、今後も大きな変化が継続するものと考えます。
- これらの市場環境、社会環境の変化への対応として、当社では本経営計画記載の施策を中心に推進することで、安定的な収益体質を構築し、長期に亘って株主に対して安定的に利益還元できる収益体質の構築に努めます。

# 参考：出版物販売市場動向

## 市場動向：出版流通市場（販売額）



## コンテンツ流通モデルの多様化

### 【2017年 コミックでは紙と電子の売上が逆転】

- 電子コミック 1,711億円 対前17.2%増
- 紙のコミック 1,666億円 対前14.4%減
- 広告が出ることで無料で読めるマンガアプリは前年比1.9倍

### 【スマホの電子雑誌定額モデル】

- 通信事業者の顧客囲い込みのための雑誌定額読み放題モデルの拡大
- dマガジン（ドコモ）楽天マガジンなど

## 継続する出版流通市場の縮小

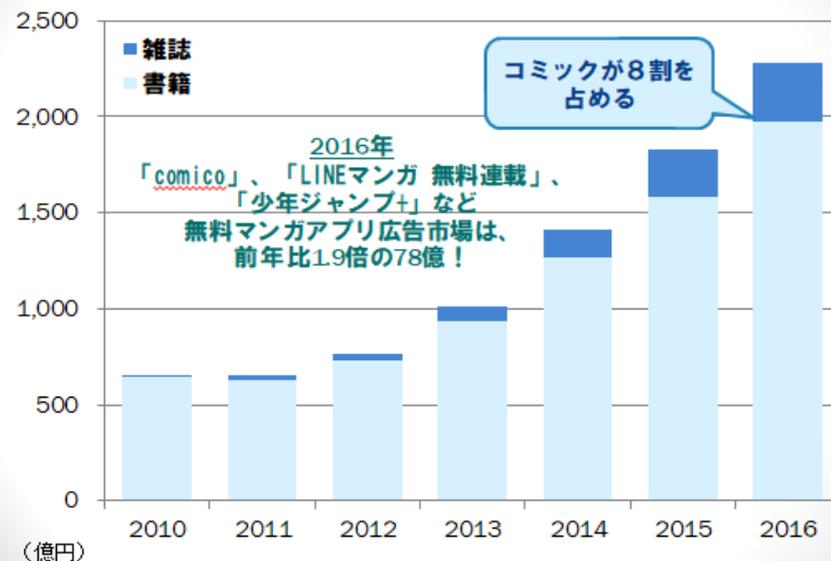
### 【書籍雑誌販売額】

- 2017年は前年比7%減
- 10年で34%減
- ピーク時の1996年から48%減

### 【書店数】

- 12,500店（10年で25%減）
- 全国の自治体の22.1%が書店ゼロ（北海道では31%の自治体で書店ゼロ）

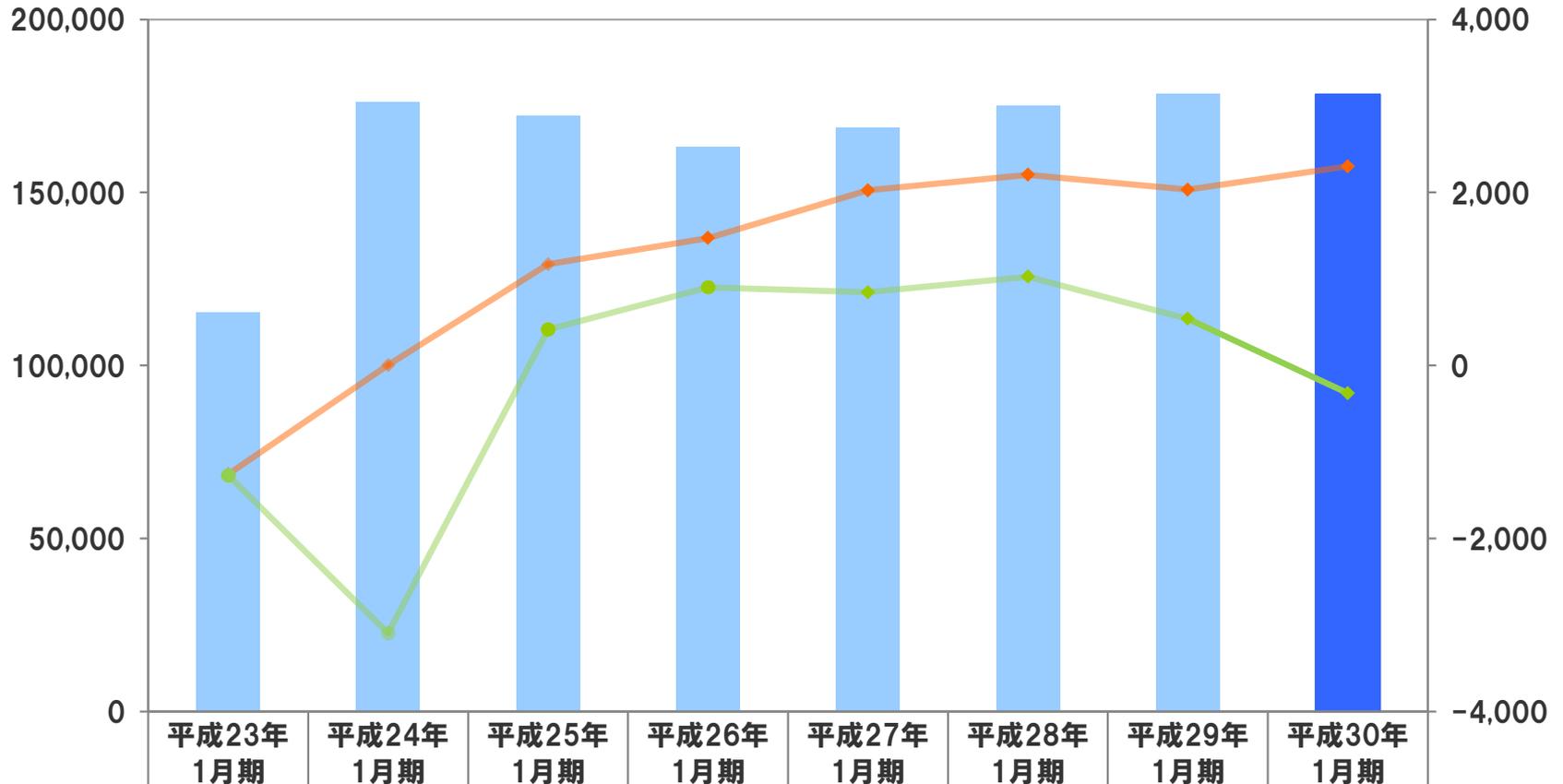
## 市場動向：出版流通市場（電子書籍）



<出典：インプレス総合研究所、2017年7月>

# 参考：全社業績推移

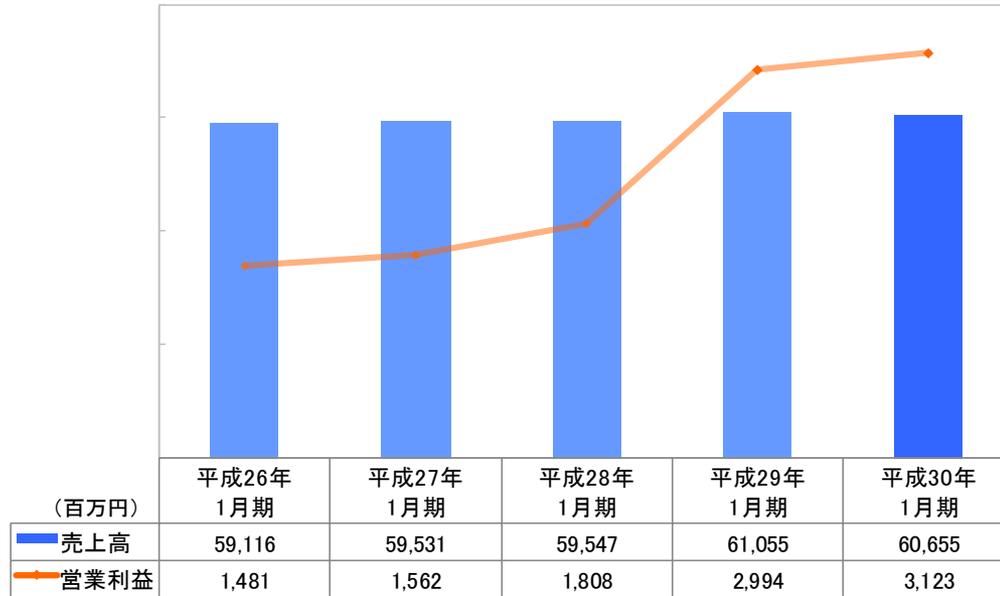
(単位：百万円)



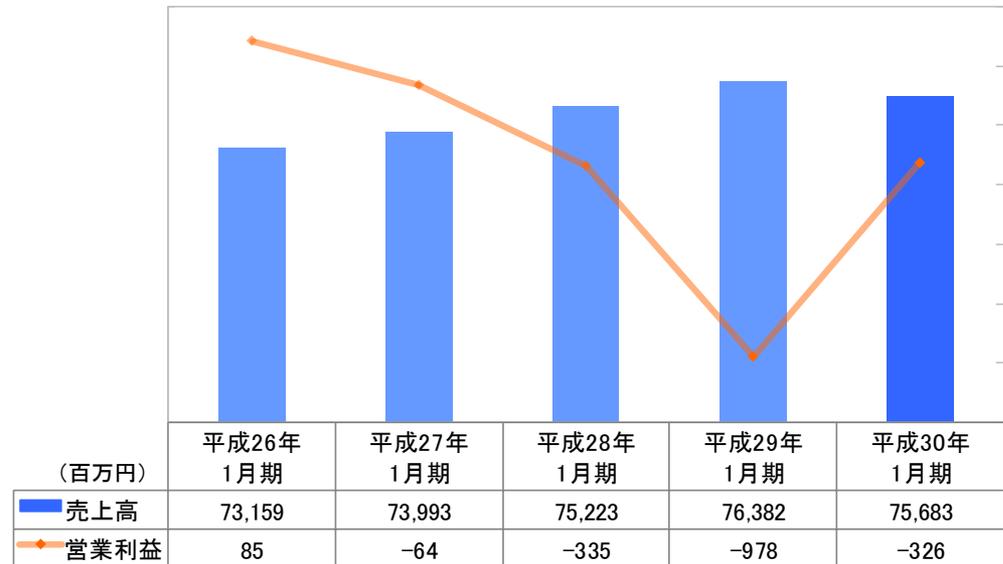
■ 売上高	115,270	176,013	172,289	163,337	168,812	175,137	178,405	178,349
◆ 営業利益	-1,255	5	1,172	1,473	2,024	2,204	2,032	2,301
◇ 当期純利益	-1,273	-3,096	416	904	845	1,025	539	-321

# 参考:セグメント業績推移

## 文教市場販売事業

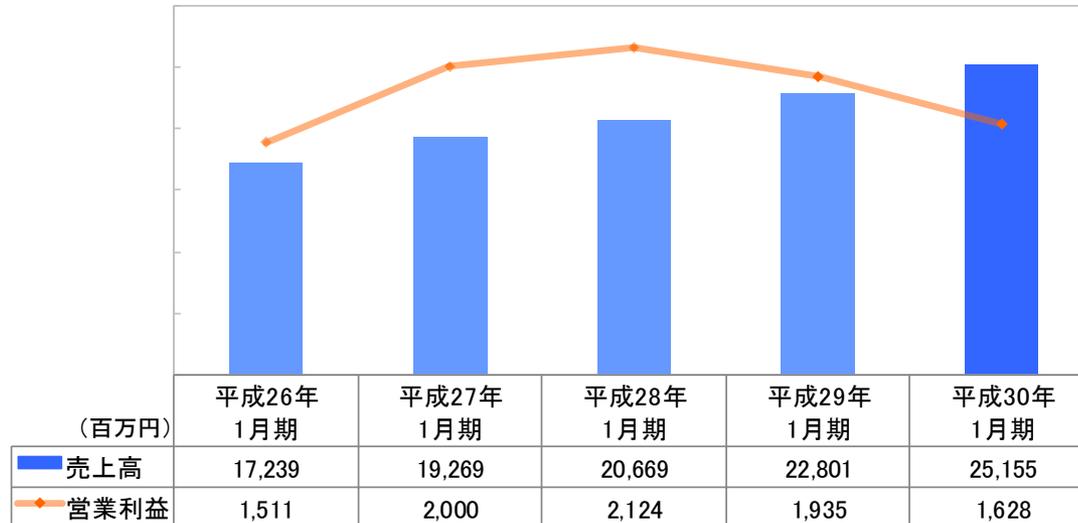


## 店舗・ネット販売事業

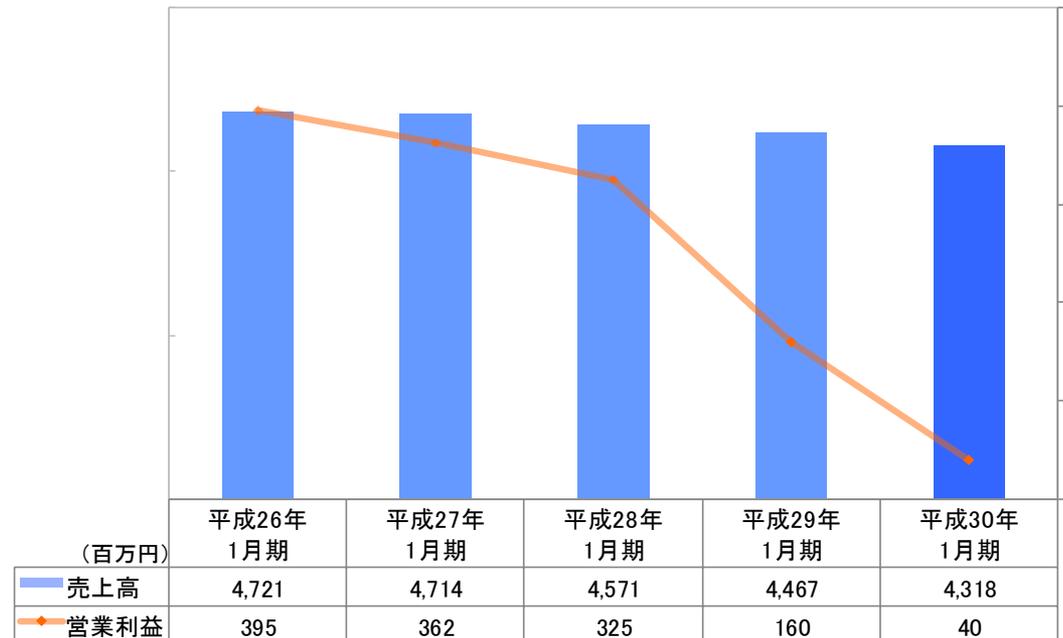


# 参考:セグメント業績推移

## 図書館サポート事業



## 出版事業



# 参考:セグメント業績推移

その他事業

